

事業に関する環境報告

コープしがは「2020年に向けた新たな環境政策」に基づき、事業と活動の両面で地球温暖化防止や自然環境の保全などの課題について、4つのテーマ（①組合員活動としての環境保全、②産直や地産地消などの環境配慮商品の強化、③温室効果ガス（CO₂）の総量削減、④廃棄物の更なる削減と事業化）で取り組みを進めています。

エネルギー資源の効率的な使用と 温暖化効果ガスの削減

[エネルギーの効率的な使用]

電気使用量は、継続的に削減に取り組んできましたが、既存事業所では削減が難しくなっています。2016年度の電気使用量の目標は、前年開店したコープもりやま店が通年営業となることを考慮し、コープもりやま店を除いた事業所で前年実績を維持することです。年間使用量は目標比3.9%超過となり、コープもりやま店の実績加えると、前年比32.7%の大幅な増加となりました。

[温室効果ガスの削減]

温室効果ガスは、コープしがだけでなく関連する子会社、物流センター、委託配達も含めて管理しています。環境政策では、2005年の温室効果ガスの排出量を基準とし2020年には20%削減すること目標にしています。2014年度には13.4%削減となっていたが、その後のSM2店舗の改築や新規出店、宅配事業の伸張による車両燃料の増加等により、2016年度の温暖化効果ガスの削減率は、2005年度の2.3%削減にとどまりました。（2016年度供給高は2005年度比35%伸長）

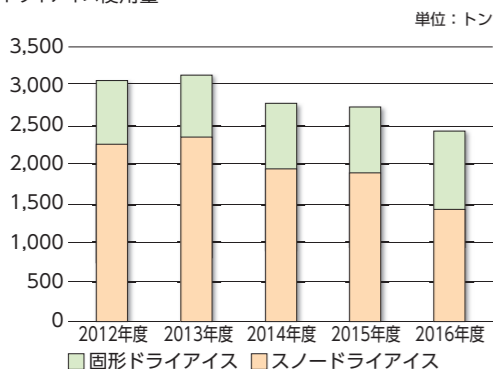
※電気CO₂排出係数は、2005年度時点の数値を2020年まで使用

車両燃料からの温室効果ガスの排出量を削減するため、BDF（※）燃料を5%配合した軽油を宅配3センターの車両に導入を行っています。

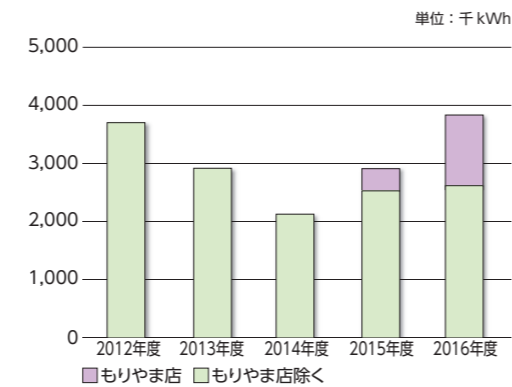
※BDFは、廃食油を原料とするディーゼルエンジン用の燃料です。コープしがは、軽油にBDFを5%添加したBDF5を使用しています。

温室効果ガスの排出量は含めませんが、ドライアイス使用量の管理も行っています。2015年12月から更新した保冷効果の高い冷凍大型ボックスの効果もあり、前年の78.9%に大幅削減することができました。

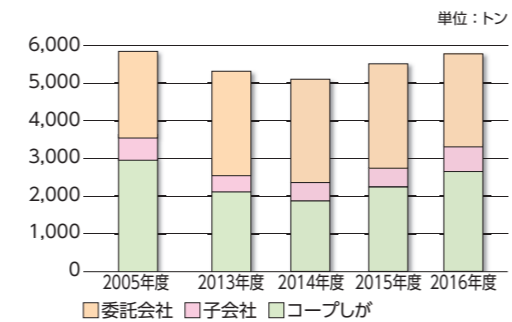
●ドライアイス使用量



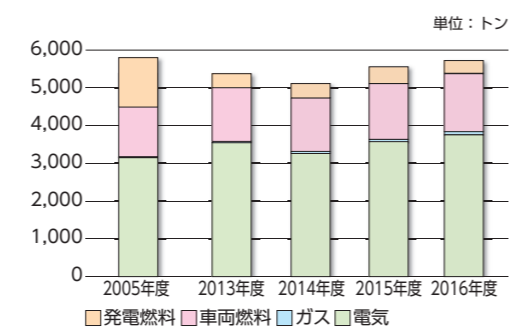
●電気使用量



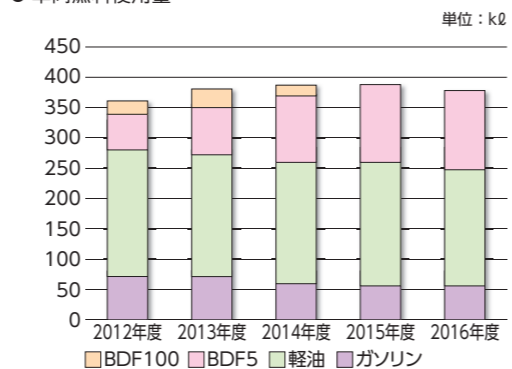
●温室効果ガス排出量 (組織別)



●温室効果ガス排出量 (発生源別)



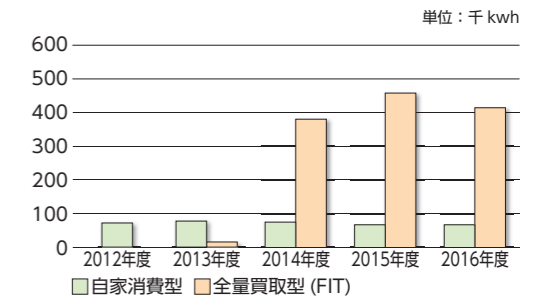
●車両燃料使用量



[再生可能エネルギーの活用]

コープしがの太陽光発電設備は、現在総発電容量が516kwとなっています。2016年度は、機器の故障や日照時間、降雪の影響により全量買取型、自家消費型ともに発電量は前年を4.3%下回る実績となりました。売電額は1,568万円でした。

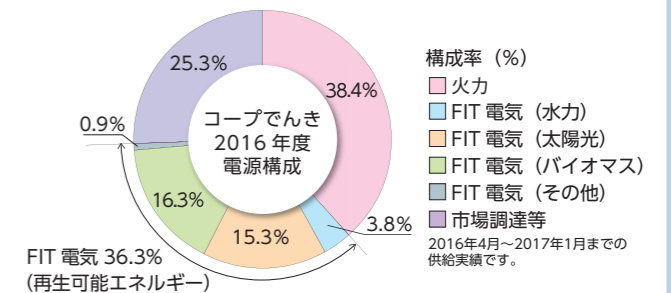
●太陽光発電発電量



トピック

「コープでんき」の取り扱いを開始しました

2016年4月から「電力の小売り全面自由化」が始まりました。コープしがは組合員に電気代が節約でき、再生可能エネルギーによる電気の割合が高い「コープでんき」の取り扱いを開始しました。年度末で3,652人の方にご利用いただいています。



廃棄物の削減とリサイクル

[廃棄物の削減]

コープしがでは、一般廃棄物は食品廃棄物とそれ以外に分別し、食品廃棄物は飼料に再生しています。産業廃棄物は大半が廃プラ類になりますが、有価物として売却できるものは分別・減容加工し再生原料として販売しています。分別できない残りは処理業者がRPF（固形燃料）に加工して有効利用されています。それ以外に分別した廃棄物は、当該行政の焼却場で焼却処分します。

2016年度はコープもりやま店の通年営業等により、産業廃棄物（廃プラ）が前年比3.4%増え、一般廃棄物（焼却処分）は79%増と大幅に増加しました。

[食品リサイクル]

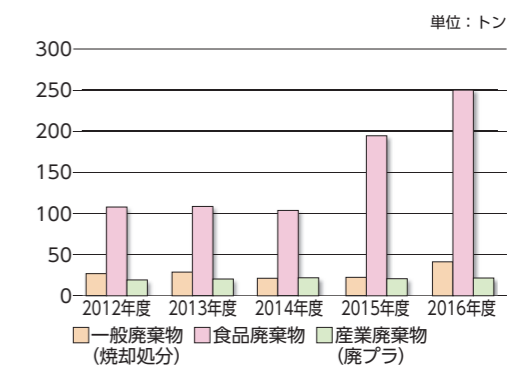
食品廃棄物は、コープもりやま店の通年営業に伴い前年比32.6%増と大幅に増加しました。食品廃棄物は主に飼料に再生して有効活用を図っています。排出量の55%以上を再生することが法律で義務付けられており、2016年度は目標を超える98%を再生利用しました。また、排出の抑制では、売上高百万円あたり65.6kg以内という努力目標が設定されていますが、2店舗の排出量は46.5kgで目標以内に抑えることができました。

[リサイクル活動]

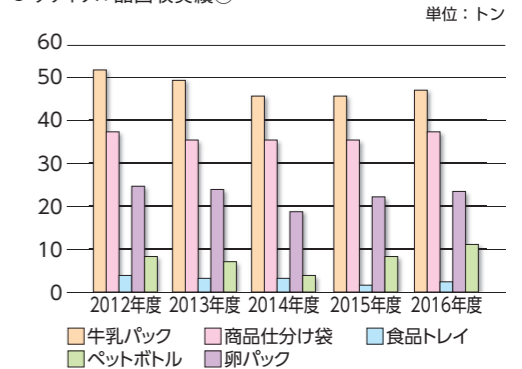
コープしがでは宅配や店舗事業で商品と一緒に組合員に供給した容器包装や、商品案内書は、出来るだけ組合員から回収して資源としてリサイクルしています。2016年度は、宅配事業の伸長やコープもりやま店の通年営業などにより、すべての回収品で前年実績を超える回収量となり、目標（前年実績の維持）を達成しました。

回収率では、商品案内書が前年より3.4%向上し55.7%に、商品仕分け袋は0.1%向上して33.6%となりました。

●廃棄物排出量



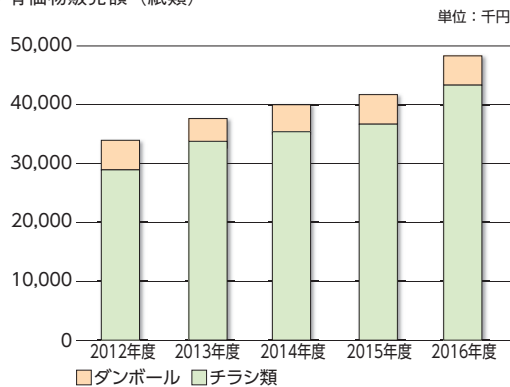
●リサイクル品回収実績①



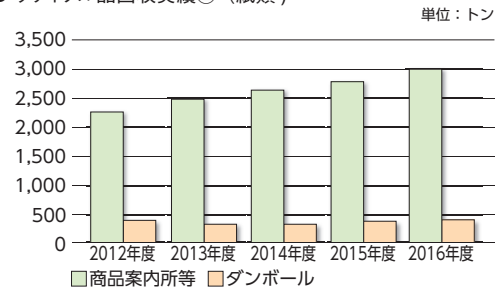
[リサイクル事業]

組合員から回収したリサイクル品や物流センターで出るストレッチフィルム、PPバンド、ダンボールなどは、近江八幡市のアズコム物流センター内の「リサイクルセンター」に集め、分別や減容(圧縮)処理して、再生原料として販売するリサイクル事業を行なっています。最もウエイトが高いチラシ類の販売量が増えたことから、販売額総額は、5076万円(前年比11.3%伸長)になりました。リサイクルセンターの作業量が増えたため、2015年度から障がい者の雇用を1名増やしての作業を行なっています。

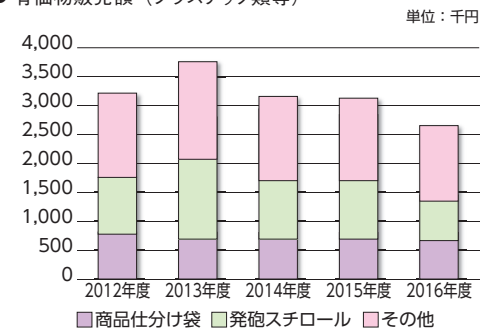
● 有価物販売額(紙類)



● リサイクル品回収実績②(紙類)



● 有価物販売額(プラスチック類等)



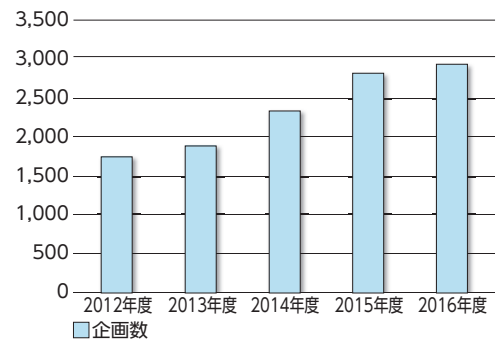
環境に配慮した商品の取扱い・購入

[県内商品の取り扱いを増やし地産地消をすすめる]

宅配での2016年度目標は、コープしが独自企画の「ぱくぱくエコー」で県内商品の企画点数を5%増やすことしました。対象商品は、県内生産品・県内生産材料を使用した商品とし、目標を上回る前年比9.1%増の2,948企画することができました。

店舗では、県内農産物の供給高5%増を目標に対し、計画比16.3%伸張の5700万円の実績となり、地場商品の取り扱いが大きく伸びました

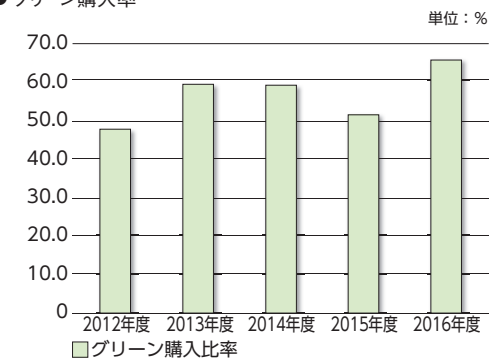
● 宅配の県内商品企画数



[グリーン購入]

グリーン購入対象商品を優先的に購入する活動は、事務用紙と事務用品に区分して管理しています。事務用紙は、グリーン購入対象紙の使用が定着し、購入率は99.85%(重量比)になっています。事務用品の購入率は65.45%(点数比)でした。

● グリーン購入率



[環境に配慮した商品の取扱い]

商品案内書エコーやくらしのパートナーで取り扱いのコープきんぎ共同企画商品でも環境に配慮した商品の取り扱いが増えました。

● 環境配慮商品実績

環境配慮商品	説明	利用点数	前年比
エコマーク	生産から廃棄を通して、環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品	252,287	100.8%
FSC	適切に管理された森林資源で作られた商品	214,015	129.4%
MSC	持続可能な漁業で獲られた水産物で作られた商品	101,227	94.5%
有機栽培	農薬や化学肥料に頼らず環境負荷を減らして栽培しJAS認証を受けた農産物	149,133	102.0%
特別栽培	慣行栽培と比べ農薬・化学肥料の量が50%以下で栽培された農産物。	388,494	107.8%
レインフォレスト	熱帯雨林を守ることを目的に持続可能な農業を営む農園で育てられた商品	13,802	105.2%
コアノン・スマイルスクール	コアノンロール利用でアンゴラの学校づくりを支援する	81,425	99.9%
レッドカップキャンペーン	対象商品の利用で飢餓に苦しむ子どもたちに給食を支援する	82,598	100.6%
フェアトレード	発展途上国の農産物や商品を公正な価格で取引された商品	981	44.2%
産地指定	主要な原料に産地や栽培方法が明らかな国産素材を使った商品	1,192,940	122.3%
国産素材	主要な原材料に国産素材を使っている商品	3,112,167	111.8%